

議案質疑

平成23年度
一般会計予算

道路改良事業の
整備予定箇所は？

(自民クラブ)

問 道路改良事業として3億838万円計上されているが、具体的な内容及び整備予定箇所を問う。



整備が予定される市道壬生川丹原線

答 道路改良事業については、地域住民の生活基盤整備のため、市道の新設及び改築工事などを行うもので、その内訳は、需用費10万円、測量設計委託料2千576万5千円、工事請負費2億1千62万8千円、負担金・補助及び交付金315万円、公有財産購入と

補償補てん賠償金6千873万7千円の合計3億838万円である。

整備予定箇所は、地元住民や自治会などから本庁及び各総合支所に届いた要望の中から緊急性、整備効果の高いものを抽出し、年度ごとの予定を定めている。具体的な今年度の整備箇所は、全体として新規16路線、継続39路線の55路線の整備を予定しており、その内訳は、本庁では飯岡地区の市道飯岡5号線ほか20路線、東予総合支所では多賀地区の市道壬生川丹原線ほか21路線、丹原総合支所では田野地区の市道林3号線ほか5路線、小松総合支所では小松地区の市道岡村線ほか5路線を予定している。

廃棄物の処理及び
環境美化に関する
条例の一部を
改正する条例

資源ごみの持ち去り
行為に歯止めを！

(無党派)

問 資源ごみの持ち去りの現状はどのようになっているか。

るのか。

また具体的に、今後、どのような対応を行っていくのか。

答 資源ごみの持ち去り状況は、パトロール調査や市民からの通報などで約20台の車両が行動していることを確認している。これは、本市の周辺市において規制条例が制定された結果、条例のない本市に集まっているものと推測される。

これまで、ごみステーションでの見張りや立ち番を行うなど、市民の協力を得て対応してきたが、組織的な抜き取り行為が横行しており、市民にも不安を与えている。今後の具体的な対応としては、今回の条例公布から10月1日の施行日までの約半年間に、できる限りの広報活動を行い、ごみステーションには看板を設置し、市民や抜き取り行為者に対して条例施行の周知を図り、抑制を働かせたいと考えている。

条例施行後は、市民からの通報などの協力を得るとともに、職員によるパトロールなどで得られた情報をもとに、



市委託業者による資源ごみの回収

警察の協力も得ながら、違反者に対し罰則を適用することで抜き取り行為を防止していきたいと考えている。

一般質問

どう継承する！
地域の歴史・文化

(自民クラブ)

問

本市の歴史、文化を継承していくための市内各地域の取組の現状と、それらを保存・活用するための今後の市の方向性を問う。

答

合併により、各地域の貴重な文化財や伝統、

文化、優れた功績を残された先人の足跡を受け継ぎ、保存し、後世に伝えていくことは大切なことと認識している。郷土の歴史や文化財などについて理解を深めるため、社会教育施設などでの常設展示のほか、企画展や講座などを開催し、社会教育施設全体では年間約13万人の来場をいただいている。今後ともこれら歴史文化遺産の調査・研究や先人の顕彰に努め、広報紙などを利用した情報発信を行うほか、文化財冊子の作成の検討や、現在取り組んでいる企画展、講座、体験学習などを充実し、市民の文化財に対する意識の高揚に努めていきたい。



東予郷土館の企画展